

連携協働科目の コンセプトと開発状況

川上泰彦・山中一英・神内聡・三浦智子



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

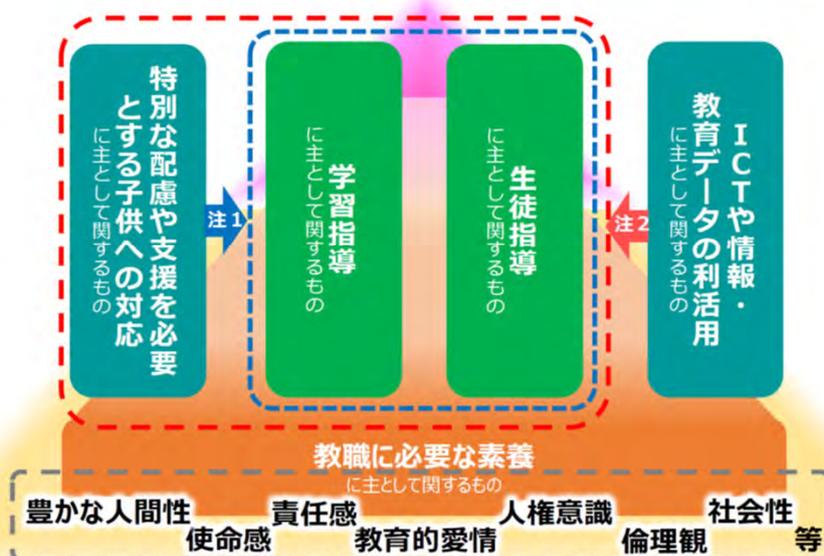
「資質能力」全体像における「連携協働」

- 「教員の資質能力」において横断的な要素とされる「マネジメント」「コミュニケーション」「連携協働」
- 本学の新たな教員養成スタンダード（案）においても「多様な関わりを構築し活かす力」として「連携・協働」「コミュニケーション」「ファシリテーション」が掲げられる
 - 教員としてさまざまな実践を行なって行くうえで、それらの領域を横断して重要な要素（いわゆる「横串」の要素）とされる



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針
に基づく教師に共通的に求められる資質の具体的内容



※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

「組織マネジメント」「連携協働」のとらえ

- とすると「マネジメント」「連携協働」は応用的な資質能力、として捉えられがち
- 中堅期教員向けの研修テーマとして取り上げられがち
 - まずは教師としての基本的な要素を身につけてからのもの
 - 一定の校内役割や職位を得た後に必要となる要素
…といった認識
- 初任期教員向けの研修課題としては、設定されにくい

一方で：「組織マネジメント」「連携協働」ニーズの高まり

- 包括的に児童・生徒を指導する日本の学校文化
 - 多くの課題を、まずは「学校で受け止める」
- 学校における教育活動の高度化・複雑化
 - 指導課題の複雑化・高度化への対応
 - さまざまなリスク（安心・安全の確保、指導の保証等）への対応
- 「組織的対応」「協働による高度化」が重要に
 - **学校内**：学級・教科を担当する教員間での協働、養護教諭との協働、学校事務職員との協働、SC、SSW等との協働、等
 - **学校外**：特別支援教育等の専門機関、児童相談所、警察、弁護士等



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

「組織として動く」必要性

- 学校教育の高度化・複雑化→「組織的対応」が求められる
 - 従来：「教職」（職業）への適応で多くがカバーできていた
 - 現代：「学校」（職場）への適応と内部・外部での連携が求められる
 - 教職課程において「組織マネジメント」「連携協働」を扱う必要
- ただし、初任期教員にとって「組織マネジメント」をイメージするのは難しい（中堅期以降の課題として認識される傾向）
- 学生にとっての「連携協働をめぐる課題の広がり」を整理
 - 学校組織マネジメントに関する学びの「入口」としての「**学校安全**」
 - 学校内に軸足を置いた連携課題としての「**児童生徒の指導・支援**」
 - 学校外も含めた幅広い連携課題としての「**防災**」



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

「連携協働科目」 3科目の設定

- 1. 「**子供の安全と学校組織**」 (1年次)
 - 学校組織マネジメントに関する学びの「入口」
 - その後の学校体験活動等への応用を期待
- 2. 「**教師の連携・協働と学校経営**」 (3年次)
 - 主に学校内に軸足を置くことが求められる連携課題
 - 実地教育（教育実習）との相互作用を期待
- 3. 「**多機関連携と学校防災**」 (3年次)
 - 学校外も含めた幅広い連携課題



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

「連携協働科目」における学びの重点

- **題材**に関する学び
 - 「学校安全」「防災（教育）」「児童生徒の支援」に関する知識
- **仕組み**に関する学び
 - 学校組織のマネジメント体系と学校内部の連携協働
 - 学校外との連携（広がりと接点）
- **見え方（視点）**に関する学び
 - 学校内・学校外を問わず、他職種協働において発生する、事象の「見え方の違い」の認識（と視野の広がり）
 - 連携協働の必要性和難しさの体験



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

「見え方（視点）に関する学び」の意義

- 組織観・指導観や教職観に立ち入らない「知識」では不十分
 - 例1：「連携協働・組織としての動きは大切である」という知識
 - 例2：「連携協働・組織的活動にはこんな場面がある」という知識
- 組織観・指導観や教職観に「揺らぎ」をもたらす「広がり」を提供する必要
- 教師間の協働において陥りがちな「足並みをそろえる」へのこだわり（足並みが揃わないものを採用する難しさ）
 - 「多様な見え方を採用する」よりも「全員に共通する見え方を採用する」という意識は、連携の効果を狭める（打ち消す）恐れがある
 - 「見え方の違い」を前提としたコミュニケーション／相互理解の経験を提供する



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

学校における「見え方の違い」の活用

高嶋ら（2007）「学校現場における教師と心理臨床家の『視点』に関する研究」『心理臨床学研究』第25巻第4号，419-430頁

- 教師と心理臨床家がお互いにどんな「見え方の違い」を自覚しているかを調査
 - お互いの特徴をやや強調する一方で、共通点も見いだされる
- 「ほどよく」視点の違いを認識する必要性
 - 互いの視点の違いは、連携の効果を生む源泉と考えられる
 - 一方で、特徴点・違いを強調しすぎることが距離感を生み、連携の障害につながる可能性も指摘される
 - 「ほどよく」相違点と共通点を認識することが重要
 - 見取りに関するコミュニケーションの密度・効果を上げる



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

多職種協働における役割の「線引き」(学校内)

保田直美 (2014) 「学校への新しい専門職の配置と教師役割」『教育学研究』81巻1号,1-13頁

保田直美 (2022) 「常勤での多職種協働と教師役割」『教育社会学研究』第110集,191-211頁

- 教師業務の「無境界性」「指導の文化」「包摂の文化」
 - 他職との関係が「分業」にとどまる(「協働」に至らない)おそれ
 - 「境界線」の発想:単なる専門的知識の活用に止まるリスク
- 専門職を非常勤で迎える場合
 - 教師の「ゲートキーピング」が協働の機能性を左右する
- 専門職を常勤で迎える場合
 - 水平的代替・役割重複の発生
 - 「うちの職員」として他職を捉えられるかが効果感を左右する(メンバーシップへの埋め込み・コミュニケーションの必要性)

多機関連携の成否を握る「制度」「場」「人」

伊藤正次 (2019) 『多機関連携の行政学』有斐閣

- さまざまな領域における多機関連携の分析(児童虐待防止、児童発達支援、少年非行防止、公共図書館、労働基準監督、消費者保護、就労支援、地域包括ケア)
- 鍵となるのは「制度」「場」「人」
 - 関わりを維持するための制度(属人的な関係にしない)
 - コミュニケーションの場の設定
 - 機関間を往還する(両方の「見え方」がわかる)人の設定・育成
- 「学校安全」「防災」「児童・生徒の支援・指導」いずれにおいても、学校外との関係については同様の状況
 - 「制度」「場」「人」に関する理解
 - それぞれが機能するためのコミュニケーション、「違い」の理解

子供の安全と学校組織 1年次

- <学習目標>
 - 学校安全に関する全体像を把握・理解し、学校内での安全管理（リスクの察知と対処・回避、事故発生時等の対応）について、具体的なイメージを持つことができる。
 - 学校安全の観点から、学校の組織と活動・施設の管理について理解する。
- <内容（案）>
 - 児童生徒の年齢・発達段階（学校種）によって異なる「学校安全」の勘所を知る
 - 学校生活にかかる危機事例（教室内外の生活安全、交通安全、学校事故、不審者対応等）を用いた演習と、関連講義の組み合わせ



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

教師の連携・協働と学校経営 3年次

- <学習目標>
 - 学級における子どもの「支援」のバリエーションを理解する。
 - 子どもの支援における学校内外の連携パターンについて知る。
 - 学級・子どもの状況を分析し、学校内外の誰とどのような連携・協働のもとで支援を行うことができるか、方針を構想することができる。
- <内容（案）>
 - 学校内外で発生するさまざまなタイプの事案（いじめ、不登校、虐待、問題行動、個別支援等）について、教職志望者・心理職志望者・福祉職志望者等で、「見え方」の違いに気づくような演習と、協働に関する講義を組み合わせる。



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

多機関連携と学校防災 3年次

- <学習目標>
 - 学校における「災害」のリスクを幅広く想定することができる
 - 学校防災にかかる地域住民・行政組織等との連携について、連携先が想定できる
 - 学校防災にかかる実践について、学校内外におけるコミュニケーションの特性を理解し、その対処法を想定することができる
- <内容（案）>
 - 学校における防災の必要性と、児童・生徒に向けた防災教育の現状について理解を促す講義・演習と、地方行政や地域の民間団体等との協働に関する講義・演習を経て、実際に防災・危機管理の手引き作成を実践する。



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION

今後の科目開発（予定）

- 具体的な教育内容の作り込み
 - それぞれの開設科目に関連する事例教材の収集・選定（・作成）
 - ゲスト講師の選定・依頼
- 試行的実施とフィードバック
 - 現行カリキュラムで実施される授業内で、一部を施行する。
 - 施行結果を受けて教材のブラッシュアップを進める。



HYOGO UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION